



令和5年10月27日（金）第28号

『校長室の窓から』

八尾市立龍華中学校発行

ことばのちから

10月24日（火） この日に発行した『校長室の窓から』前号はできあがるのが終学活終了間際で、次の日に配られたクラスもあったと思います。『終学活の中、迷惑かけてしまう』と思いつつ、ある教室に届けにいくと『校長室の窓から！』という類の、なぜかはわからないけれど本紙に好意的にとらえられるような反応があり、元気をいただきました。前号は、『文書量は少ないけれど』『ミホールさんの成果物や立候補者のおかげによる文書だけ』と思いつつも、前号を発行して良かったと思いました。

この話には続きがあります。帰宅する生徒の皆さんを見送るべく私も東門に立っていると、今度は、「面白く読んでます」とか『校長の窓』、いいと思いますよ」「HAPPY HALLOWEEN、学級閉鎖、生徒会選挙！（前号の見出し）」などと伝えてくれる人たちに遭遇しました。「今日は、文書量も少ないし、ミホールさんのデコレーションのおかげ…」などとも思ったので、それを伝えながらも、やはりうれしくなりました。

これまで幾度か保護者の方々からも「読んでます」とのお言葉をいただいたことがありました。「学校の様子がわかります」というお声には、心の中で『そうであってほしい』と思い、「勉強になります」と言われた時には恐縮しかなく、高校の方から「校長通信、読んでますよ。御校の様子がわかります」と言われた時には、『ホームページにアップロードしてるから読んでほめる人もいてるだろうけど』うれしかったです。

皆様からいただく「読んでます！」は、自分が届けたよりきっと何倍、何十倍もの幸せを私にもたせてくれています。お読みいただいている方々、ありがとうございます。

『この時にはこんなことを龍華中の人たちはしていた』ということ、拙い文章であり、また私の視点からでしかありませんが、今後もしもできるだけお届けできたらと考えています。

授業の研究

教員は個々、授業の在り方について、校内外の他者の授業実践を見学に向ったり参考となる書物を読んだり、様々なメディアから情報を仕入れたり、あるいは自己の授業の中に『これは』と思う工夫を採り入れたり、時には互いに授業見学する期間を設定し互いに助言し合ったり等々して、研究の毎日を過ごしながら、生徒の皆さんにとって、よりよい、よりわかりやすい授業の提供に努めています。

今週は校内で授業を研究する時間が多くありました。10月25日（水）は音楽、数学、英語の各科で、10月26日（木）は理科でありました。授業者である教員は、授業後にアドバイスを得てそれらをよりよい授業の糧としていくことでしょう。本校が「こどもが学び育つ場」「教職員が学び育つ場」となるよう今後も一所懸命授業の研究にあたってまいります。

学級閉鎖

10月26日（木） 学級閉鎖明けの2年5組の登校と入れ替わるかのように、2年4組がインフルエンザや発熱、体調不良の人が多く、学校医に相談のうえ、10月27日（金）まで学級閉鎖となりました。

皆様方、体調不良と思われた場合は、無理をせず療養してください。予防対策として、必要に応じたマスクの着用、手洗い等の手指消毒や換気の徹底、人混みを避ける等できる範囲でお努めください。何よりご自愛のほどお祈り申し上げます。

テスト

先週末に2学期中間テストが終わり、今週は採点された解答用紙が返却されたことでしょうか。なぜその点数を得ることができたのかあるいはなぜその点数しか取ることができなかったのか、その点数にいたるまでのどんな取り組みが良くてそうなったのか、どんな取り組みが悪くてそうなったのかを冷静に見つめ、次に生かすことが大切ではないでしょうか。『この取り組み、あの工夫が良かったからだ』と自分にしかわからないことがきっとあるはずです。そして、『それを他教科にも生かしてみよう』となれば、自分だけの学び方、生涯の勉強方法を身につけることにつながっていくのではないのでしょうか。

『あれだけ勉強したのに』という人もきっといることでしょうか。『自分に何かがたりなかった』と思い『そこをがんばっていこう』と考える人は、自分の何かを変えれば結果も変えていけると思います。自分以外に理由や責任を求める場合、自分以外の周りが変わらないと成績も変えられなくなるということになってしまいかねません（自分以外の、何かや誰か、を変える必要があるケースもあるでしょう）。

一所懸命であっても、失敗はあります。我慢の時、試行錯誤が続いたとしても、その‘失敗’や‘試行錯誤’が、成功へ続く道、扉を開く鍵だったと思えるよう、地道な努力を積み重ねてほしいと願います。